

社会的意味の計量分析：日本におけるアニメ・特撮ソングの 歌詞の特徴と変遷

上越教育大学 小島伸之

1. 目的

本報告は、戦後日本におけるアニメ・特撮 TV シリーズ 4 作品群（機動戦士ガンダムシリーズ、超時空要塞マクロスシリーズ、スーパー戦隊シリーズ、仮面ライダーシリーズ）のオープニング・エンディングの歌詞を対象にテキストマイニングの手法を用いて分析を行い、歌詞の特徴と時期的変遷を全体の傾向及びシリーズ別の差異について明らかにすることを試みるものである。

2. 方法

左古輝人は見田の業績の現代的応用としての若者層の価値意識を反映したのものとして 1960 年代から 2010 年代までの「ヒットソング」を事例にテキストマイニング分析の手法を用い、地名の減少などクロノロジカルな変遷を明らかにするなど、歌詞の質的な変化について跡付けている（左古輝人「ヒットソング歌詞の変遷—1968 年から 2013 年まで」『人文学報』497 号、2015）。同様に小林・天笠・鈴木も、1970 年代から 2010 年代までの流行歌の時系列変化を明らかにし、外来語とカタカナの頻度の減少、漢語と漢字の頻度の増加について指摘している（小林雄一郎・天笠美咲・鈴木崇史「語彙指標を用いた流行歌の歌詞の通時的分析」『人文科学とコンピュータシンポジウム論文集—じんもんこんの新たな役割』2015 年）。一方、戦後の日本において、TV 番組や映画の主題歌は流行歌やユースカルチャー・サブカルチャーの戦後日本の中核ジャンルであるとともに「ヒットソング」の一つの供給源であり、社会とその変化を分析する重要な事例の一つと考えられる。また、特撮ヒーロー作品の「戦い」の変遷については一定の先行研究の蓄積も存在する（平侑子「スーパー戦隊シリーズにおける「正義」と「悪」の変遷」『北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院院生論集』8 号、2012 年など）。本研究は、テキストマイニングによる歌詞分析に関する先行研究と、特撮ヒーロー作品の「戦い」に関する先行研究を交差する形で、アニメ・特撮のオープニング・エンディングの歌詞を事例に、歌詞の特徴と時期的変遷を全体の傾向及びシリーズ別の差異について明らかにすることを試みた。対象曲は、機動戦士ガンダムシリーズ（全 87 曲）、超時空要塞マクロスシリーズ（全 22 曲）、スーパー戦隊シリーズ（全 118 曲）、仮面ライダーシリーズ（全 52 曲）のオープニング・エンディング（挿入歌は含まない）計 279 曲である。

3. 結果

暫定的な分析の結果、1970 年代の曲においては、「戦い・勝利」に関する語彙が 23.7% と最も多かったが（1980 年代には 13.6%）、1990 年代に 4.3% に減少し、その傾向は現在まで続いていることが明らかとなっている（2000 年代には 4.7%、2010 年代には 4.6%。通年は 6.87%）。また、1970 年代には 2.08% であった「希望・願い」に関する語彙が、1980 年代には 7.29% に増加し、その後安定した水準となっている（1990 年代には 6.46%、2000 年代には 8.33%、2010 年代には 8.78%、通年で 7.56%）。

4. 結論

戦後日本のアニメ・特撮作品のオープニング曲及びエンディング曲の歌詞には、「戦い・勝利」に関する語彙が初期作品に比して減少するなど、明確な時期的変遷が存在することが暫定的に明らかとなった。より個別具体的な分析、及び考察については、現在、コーディングの仕方を中心に分析の精緻化を志向しつつ、分析を継続的に進め、報告時にはその結果を組み込みたいと考えている。